

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年6月10日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008～2011

課題番号：20320100

研究課題名（和文） 古記録の史料学的な研究にもとづく室町文化の基層の解明

研究課題名（英文） The research of the human relation on which Muromachi culture was based, using the old diaries of aristocrats and priests.

研究代表者

榎原 雅治 (EBARA MASAHARU)

東京大学・史料編纂所・教授

研究者番号：40160379

研究成果の概要（和文）：

室町時代は日本の伝統文化の形成された時代であるといわれている。本研究では、さまざまな理由によってこれまで全体像が把握されていなかったこの時代の公家や僧侶の日記を解読し、出版やデータベースの作成によって、その全文紹介を進めた。また日記に登場する人物について研究し、室町文化の形成を考える上で不可欠な人物データベースを作成した。

研究成果の概要（英文）：

It is said that Japanese traditional culture was formed in Muromachi period. In this study, we deciphered diaries of aristocrats and monks of that period, which had not been clarified overall picture due to various reasons, and proceeded to introduce the result by publishing and database creation. In addition, we researched the persons written on the diaries, and created the database of them, which is useful for research of Muromachi culture.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	5,200,000	1,560,000	6,760,000
2009年度	3,300,000	990,000	4,290,000
2010年度	3,200,000	960,000	4,160,000
2011年度	3,100,000	930,000	4,030,000
年度			
総計	14,800,000	4,440,000	19,240,000

研究分野：史学

科研費の分科・細目：日本史

キーワード：古記録 室町時代 室町文化

1. 研究開始当初の背景

室町時代は、いわゆる「日本的な」文化様式や美意識の成立した時代だとされる。その文化は、公家・武家・僧侶・町衆など異なる階層それぞれで育まれてきた文化要素の接触と混淆から生じたと考えられる。したがって、当該期における諸階層の文化的な営為や、階層をこえた人的交流の実態を明らかにするこ

とは、日本の伝統文化成立の基層を解明するうえで必須だといえる。

ところが、文化史研究の現状は、東山文化の推進者とされる足利義政や、著名な連歌師・茶人・絵師など、文化史上における頂点的な人物に焦点をあてた研究が大半であり、室町文化の広大な裾野を形成した、文化史的には無名な人々の文化的な営為や、人的交流

の具体相についての研究は進んでいない。その理由の大なるものとして、当該期の研究のための史料的な環境が十分に整備されていないことが挙げられる。具体的には、以下のような問題である。

①室町時代の文化を研究するために重要な史料でありながら、全容の明らかでない古記録が存在している。

②存在は既知であるが、自筆原本の接続の混乱、諸写本の比較検討の困難さ、などの理由から公刊に至っておらず、拠るべき底本が不明確な古記録が多数存在する。

③平安・鎌倉時代については、主要な古記録の相当部分のフルテキスト・データベースが作成されているのに対し、室町時代の古記録の全文データベース化は寥々たる状況にある。

④平安・鎌倉時代と比べて、人名索引などのツール類の整備も進捗していない。

2. 研究の目的

上記のような史料的な環境の改善をはかり、室町文化をささえた人的基層を解明することが本研究の目的であるが、そのために具体的には以下の諸点を明らかにしていく。

①室町文化史の研究の素材として重要な史料であると考えられながら、判読の難しさ、原本の散逸、写本相互比較の不足などの理由によって、確定したテキストが存在していない室町期の古記録についての研究をし、その全容を明らかにするとともに底本を確定し、全文解読を進める。

②公刊済みの基幹的な古記録複数について全文データベース化をすすめる。またツール類の整備が特に遅れている室町時代後期の複数の古記録を対象に人名索引データベースを作成する。ここで作成したデータベースは、校正完了後速やかに東京大学史料編纂所（以下、史料編纂所）よりWEB公開を行い、一般の利用にも供することになる。

③以上の成果を利用しつつ、各階層の文化的な営為、階層をこえた交流を具体的に解明する。それによって、日本の伝統文化の成立を支えた、文化史的には無名の個人や、人的なネットワークの存在を明らかにする。

3. 研究の方法

①室町時代古記録の調査・収集・諸本研究および底本の確定：室町時代の古記録のうち刊本として利用可能になっていないもの、あるいは利用可能ではあるが校訂に問題のあるものについて、所在情報を調査し、必要なものについて写真による収集を行い、諸本研究をすすめることで拠るべき底本を確定する。特に、公武の人的交流の要に位置した武家伝奏や外記系官人の日記の研究に重点を置く。

②室町時代古記録のデータベース化：公刊済みの基幹的な古記録、および一部未刊古記録

について全文データベースを作成する。

③室町時代古記録人名の研究：室町中期の古記録に登場する人名について研究し、その成果を刊本、または人名索引データベースの形態で公開する。

④室町文化の基層の解明：上記①～③の成果に依拠しつつ、室町文化を支えた各階層の文化的な営為と階層をこえた交流とを明らかにする。

4. 研究成果

室町中期の未刊古記録4点についての全文解読を行い、その成果公開を開始した。いずれも室町文化の人的基層を解明するうえで、質量ともに豊富な内容をもつものであり、今後の室町文化研究の基礎資料として学界で広く活用されることは疑いない。また既刊古記録のうち大部なもの1点についての全文データベース、1点についての人名データベースを作成・公開し、学界における史料活用の利便性の向上に大きく貢献した。

具体的に行った古記録研究は以下のとおりである。

①室町中期の古記録のうち、未刊となっていた『兼宣公記』『綱光公記』『宗賢卿記』の諸本を調査、ならびに全文解読を行った。その成果公開は本研究の期間内にすでに開始しているが、平成24年度以後も、別途経費によって継続していく予定である。

②研究期間中に新たに存在が明らかになった『師胤記』についての研究と全文解読を行った。研究成果は論文として公表し、全文の紹介は平成25年度に別途経費によって開始する予定である。

③公刊済みの基幹的古記録のうち、『蔭涼軒日録』の全文データベース、『親長卿記』の人名データベースを作成し、史料編纂所HPより公開した。

④内容的な難解さで利用が困難とされていた『碧山日録』の人名、地名、記述内容についての研究を進めた。その成果を組み込んだ刊行物は、史料編纂所より『大日本古記録』として平成24年度より開始する。

⑤以上の研究を踏まえた論文『東京大学史料編纂所研究成果報告2011-4』に発表した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計12件）

榎原雅治

「『兼宣公記』応永二十九年記の錯簡について」（『東京大学史料編纂所研究紀要』20、2010年）

「南朝系比丘尼御所保安寺について」（『国史学』203、2011年）

「藤堂家始祖「三河守景盛」の素顔」（『歴史書通信』196、2011年）

「国立歴史民俗博物館所蔵「中原師胤記」及びいわゆる「師郷記」について」(『東京大学史料編纂所研究成果報告』2011-4、2011年)

本郷恵子

「鎌倉幕府の特質について」『季刊 iichiko』No.110

「中山家・花山院家における先例の継承について」(『東京大学史料編纂所研究成果報告』2011-4、2011年)

末柄 豊

「『不問物語』について」(『年報三田中世史研究』15、2008年)

「畠山義総と三条西実隆・公条父子一紙背文書からさぐる一」(『加能史料研究』22、2010年)

「大永五年に完成した将軍御所の所在地に関する覚え書」(『東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター通信』54号)

「大覚寺所蔵『勸修寺慈尊院私抄目録』、『室町時代研究』

「親長卿記一戦国時代の朝廷を導く一」、『日記で読む日本中世史』

「飛鳥井雅親の美濃下向日記」(『東京大学史料編纂所研究成果報告』2011-4、2011年)

[学会発表] (計10件)

榎原雅治

「中世地域社会における宗教活動と民衆」(民衆史研究会大会、2008年)

「保安寺について」(東寺文書研究会、2009年)

「島津家久公の上洛の旅」(鹿児島県歴史資料センター黎明館講演会、2011年)

「宿と渡の歴史的空間」(帝京大学山梨文化財研究所考古学と中世史シンポジウム聖絵を歩く・景観を読む、2011年)

「特別展「古代東海道と万葉の世界」記念講演」(葛飾区郷土と天文の博物館、2011年)

「中世の幹線道路」(シンポジウム「鎌倉街道」を検証する、埼玉県立嵐山歴史と史跡の博物館、2012年)

「日本の古風景一変容する水辺一」(知の拠点セミナー、2012年)

「中世東海道の旅と風景一五十三次以前の東海道一」(鹿児島県歴史資料センター黎明館講演会、2012年)

本郷恵子

「千葉氏にみる中世前期の再生産構造」(鎌倉遺文研究会、2011年)

末柄 豊

「禁裏文書にみる天皇と室町殿」(大阪歴史学会大会中世史部会、2011年)

[図書] (計9件)

榎原雅治

『中世の東海道をゆく』(中央公論新社、2008

年)

『新体系日本史 政治社会思想史』(山川出版社、2010年)

『新体系日本史 宗教社会史』(山川出版社、2011年)

本郷恵子

『京・鎌倉ふたつの王権』小学館、2008年)

『将軍権力の発見』(講談社、2010年)

『物語の舞台を歩く 古今著聞集』(山川出版社、2010年)

『蕩尽する中世』(新潮社、2012年)

末柄 豊

『日本の歴史 武士の世の幕あけ』(小学館、2010年)

『細川幽斎一戦塵の中の文芸一』(笠間書院、2010年)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

榎原 雅治 (EBARA MASAHARU)

東京大学・史料編纂所・教授

研究者番号：40160379

(2) 研究分担者

本郷 恵子 (HONGO KEIKO)

東京大学・史料編纂所・教授

研究者番号：00195637

末柄 豊 (SUEGARA YUTAKA)

東京大学・史料編纂所・准教授

研究者番号：70251478

(3) 連携研究者

伴瀬 明美 (BANSE AKWMI)

研究者番号：90292797

前川 祐一郎 (MAEGAWA YUICHIRO)

研究者番号：00292798

高橋 典幸 (TAKAHASHI NORIYUKI)

研究者番号：10292799

井上 聡 (INOUE SATOSHI)

研究者番号：20302656

須田 牧子 (SUDA MAKIKO)

研究者番号：60431798

遠藤 珠紀 (ENDO TAMAKI)

研究者番号：10431800

小川 剛生 (OGAWA TAKEO)

研究者番号：30295117

高橋 一樹 (TAKAHASHI KAZUKI)

研究者番号：80300680